

アスピリンによる遺伝性大腸がん 予防と大腸内視鏡検査

Newcastle University の Burn らは、Lynch 症候群（遺伝性大腸がん）患者 861 名を対象としてアスピリンの抗腫瘍効果を検証する臨床試験の長期結果を発表（CAPP2 試験）。



遺伝性大腸がんキャリアにおいて、55.7 ヶ月後に平均 25 ヶ月間に渡る 600 mg/日アスピリンにより、癌発生率が有意に低下しました(ハザード比:0.63)。



アスピリンと大腸内視鏡検査を組み合わせることにより、大腸癌リスクのさらなる低下が可能になると予想されます。